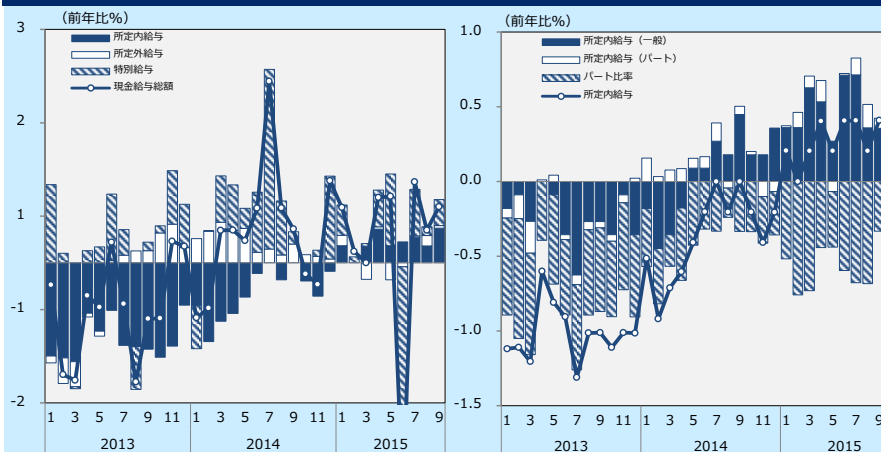


# 日本：毎月勤労統計（2015年9月）

## —夏季賞与は前年比▲2.8%と2年ぶりの減少—

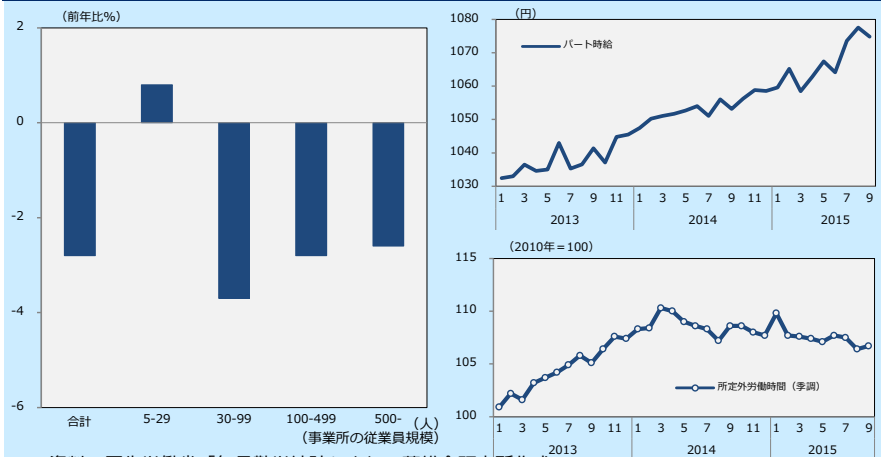
*MRI Daily Economic Points*  
November 9, 2015

図表 現金給与総額の寄与度分解／所定内給与の寄与度分解



資料：厚生労働省「毎月勤労統計」より三菱総合研究所作成。

図表 事業所規模別の夏季賞与（左）／パート労働者の時給（右上）  
／所定外労働時間（右下）



資料：厚生労働省「毎月勤労統計」より三菱総合研究所作成。

### 評価ポイント

#### 2015年9月の結果

- 名目賃金(現金給与総額)は前年同月比+0.6%と上昇、実質賃金も同+0.5%と3か月連続で前年から増加した。
- 所定内給与の伸びを一般労働者・パート労働者の所定内給与の伸びと、給与水準が相対的に低いパート労働者比率の変化に寄与度分解すると、パート労働者比率の上昇が所定内給与全体を押下げているものの、一般労働者の所定内給与の上昇による押し上げがそれを上回ること、全体では前年比で増加(前年同月比+0.4%)している。
- パート労働者の時給は、前年同月比+1.9%増と、需給のひっ迫などを要因に、増加基調で推移している。
- 夏季賞与は、前年比▲2.8%と大幅減少となった。ただし、5-29人の事業所の夏季賞与は+0.8%と増加しており、今年の特別給与の減少には、今年1月の30人以上事業所のサンプルの入替えが影響している可能性がある。
- 所定外労働時間は、前年同月比▲1.8%(季調済前月比:+0.3%)と7か月連続のマイナスとなり、生産の落ち込みを受けて労働者の残業時間が減少する動きが続いている。

#### 基調判断と今後の流れ

- 春闘の賃上げや非正規雇用の待遇改善などを背景に、名目賃金(現金給与総額)は前年比で増加基調にある。消費税引上げの影響の一巡やガソリン価格の下落などもあり、実質賃金も前年比で増加している。
- 先行きは、好調な企業収益や春闘による賃上げなどを背景に、所定内給与を中心に名目賃金は緩やかな増加を続ける見込み。ただし、中国経済が急失速するなど实体经济が下振れれば、所定外給与(残業代)の減少などを通じて、現金給与総額を押下げる可能性がある。